

R6.8 実施「協同研究グループ」への情報提供(各市町の取組や改善のアイデア等)まとめ

A あなたの市町の共同実施の取組で負担感や手詰まり感はどんなときに感じますか

【負担感】

- ・共同実施内で業務を終わらせたいのに、終わらないとき
- ・事務職員だけでは解決できない、他職や市町と連携しなければいけないとき

【手詰まり感】

- ・研修(事例・初任者等)が中心となり、活動内容が限られているとき
- ・年度計画を立てるときに、新しい取り組みをしたいが具体的な案が出てこないとき

B これまでの共同実施の取組の中で、最も学校の困り感の解決になったと思う取組はなんですか

【市町内での様式の統一】

- ・教材備品台帳データ化(敦賀市)
- ・学校日誌の電子化(福井市)
- ・文書収発簿(福井市)
- ・町全体の共通文書フォルダの整理(おおい町)
- ・年次休暇簿・復命書・職専免願(あわら市)
- ・就学援助の電子申請(越前市)

【市町内での事務処理方法の統一】

- ・会計簿、教材・学級会計システム、学校会計システム(福井市、敦賀市、小浜市)
- ・文書管理、手引き(敦賀市、三方町)
- ・集金事務(丹生郡)
- ・教材費等の振込支払い(鯖江市)
- ・文書受付当番を設置し、輪番制へ(吉田郡)
- ・教科書事務関係(丹生郡、小浜市)
- ・就学援助個人口座振り込み(越前市、敦賀市)、教育奨励費(敦賀市)
- ・異動事務(越前市)
- ・各種諸帳簿等の点検業務(越前市)
- ・C4th マニュアル(敦賀市、三方町)
- ・校外学習実施計画書システム(小浜市)



市内で統一をしたときに困り感の解決になったと感じている

C 市教委や管理職からの理解と支持はどのような方法で得ていますか

【市教委】

- ・グループ連絡会議
- ・推進協議会
- ・共同実施の記録の報告
- ・合同研修会
- ・GLが意見を集約し、担当者へ要請
- ・市教委主催の予算説明会(丹生郡)

【管理職】

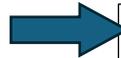
- ・グループ連絡会議、グループ運営委員会
→活動報告だけでなく、グループ内の学校事務の課題について意見を交わして改善策を検討する(小浜市)
- ・推進協議会
- ・共同実施の記録の報告
- ・合同会議
- ・管理職の研修会で管理職から共同実施の説明



活動記録の報告と、対面しての会議の際に理解を得られるよう取り組んでいる。

D 共同実施や活動の評価、振り返りをどのように行っていますか

- ・各(地域)グループで実施。
- ・共同実施内で事務職員の評価・振り返りを行う
- ・自己評価を行い、推進協議会で意見をいただく
- ・共同実施の記録を基に、推進協議会で意見をいただく
- ・年度末の共同実施評価を共有し、次年度の計画立案に役立てる
- ・Google フォームや Microsoft Forms を活用
- ・各グループでの評価様式は異なる(福井市)
- ・評価は年度末に管理職、教務主任、市教委、事務職員対象に行い、結果は各校に送付して推進協議会で集計の抜粋と考察を報告(小浜市)
- ・全教職員対象で実施(若狭町)



評価や振り返りの観点をまとめると

- ・いつするのか(When)
- ・誰がするのか(Who)
- ・目的は何か(Why)
- ・どのように評価や振り返りをするか(How)
- ・結果をどのように活用するのか(Action)

の項目で行っていることがわかる。